

(様式8)

公共事業終了箇所評価調書

評価確定日(令和元年9月30日)

事業コード	R元一建一終一03	区 分	● 国庫補助 ○ 県単独
事業名	地方道路交付金事業(改築)	部 局 課 室 名	建設部 道路課
事業種別	1次改築(橋梁架替)	班 名	道路建設班 (tel)018-860-2492
路線名等	(主)大曲大森羽後線	担 当 課 長 名	道路課長 佐藤 秀治
箇所名	大仙市大曲(大曲橋)	担 当 者 名	副主幹(兼)班長 渡部 寿
政策コード	03	政 策 名	未来の交流を創り、支える観光・交通戦略
施策コード	05	施 策 名	県土の骨格を形成する道路ネットワークの整備促進
指標コード	04	施策目標(指標)名	生活道路の機能強化

1. 事業の概要

事業の背景 及び目的		本路線は、大仙市の西部生活圏から中心都市部へ通勤、通学、通院等の日常生活を支援する重要な路線である。また、秋田自動車道「大曲IC」及び大仙市総合公園と市中心部を連絡する道路の一部をなす路線である。 当該計画区間は車道幅員が5.0mと狭小であるのに加え、大曲橋は架橋後約70年が経過しているため経年劣化による老朽化も著しい状態である。 このような状況を踏まえ、橋梁掛替により、安全で円滑な交通を確保し、生活道路としての機能強化、物流の効率化を図るものである。					
事業効果の 要因変化 及び 発現状況	事業期間	前回(H25年) H16年 ～ H28年 終了 H16年 ～ H28年	総事業費	前回(H25年) 63.5億円 終了 64.0億円	国庫補助率	70.0	
	事業規模	前回(H25年) 延長 L=1,334m、幅員 W=6.0(16.0)m 終了 延長 L=1,334m、幅員 W=6.0(16.0)m					
	事業費 内訳内容 (千円) 及び 要因変化		前回評価計画①	最 終②	増減②－①	理 由	
		事 業 費	6,354,000	6,403,000	49,000		
		経 内 費 記	工 事	4,016,000	4,089,000	73,000	旧橋撤去工事の精算による
			用 補	1,926,000	1,939,000	13,000	不動産鑑定や建物調査結果による
			その他	412,000	375,000	-37,000	委託費の精算による
	事業内容	調査・設計、用地補償、橋梁工、改良工、舗装工	調査・設計、用地補償、橋梁工、改良工、舗装工				
	コスト・効果対比較		費用便益変化の主な要因（前回評価→終了）				
	○最終コスト 終了C②／前回評価C①＝（1.00）		【便益】 評価時点における原単位の見直しによる走行時間短縮便益等の増				
○費用便益 前回評価B／C＝（1.5） ↓ 終了B／C＝（1.5）		【費用】 工事費等の増					
目 標 達成率	指 標 名	県管理道路改良率					
	指 標 式	改良済み延長/路線実延長					
	指標の種類	○成果指標 ●業績指標	低減指標の有無		○有 ●無		
	目 標 値 a	78.9%	データ等の出典		道路課調べ		
	実 績 値 b	79.0 %					
	達成率 b／a	100.1%	把握の時期		平成31年4月		
	指標を設定することができなかった場合の効果の把握方法 ○指標を設定することができなかった理由及び把握方法と成果 ※データの出典含む						
自然環境の 変化	・全国花火競技大会が開催される雄物川河川緑地運動公園内のため、景観に配慮し添架物を上部工断面内に収めた。						
社会経済 情勢の変化	・特になし						
事業終了後の 問題点及び管 理・利用状況	・橋梁架替により、安全で円滑な交通が図られている。						

住民満足度等の状況 (事業終了後)	①満足度を把握した対象 ●受益者 ●一般県民 (時期: R1年 9月) ②満足度把握の方法 ●アンケート調査 ○各種委員会及び審議会 ○ヒアリング ○インターネット ○その他の方法 (具体的に) ③満足度の状況 9割以上の回答者から「満足」「おおむね満足」との回答を得ている。 理由として、「走りやすくなった」「冬期交通における安心感が高まった」という回答が多かった。
上位計画での位置付け	○2期ふるさと秋田元気創造プラン「生活道路の整備推進」
関連プロジェクト等	○大仙市都市計画(都市計画道路上栄線 H16.8.20告示)
前回評価結果等	●選定または継続 ○改善 ○見直し ○保留又は中止 ①指摘事項 特になし。 ②指摘事項への対応 特になし。

2. 所管課の自己評価

観 点	評 価 の 内 容 (特 記 事 項)	評価結果
有 効 性	①住民満足度の状況 ●A ○B ○C アンケート調査を実施し、回答者の9割以上が事業に「満足」、「おおむね満足」している。	●A
	②事業の効果 ●A 達成率100%以上 ○B 達成率80%以上100%未満 ○C 達成率80%未満 当事業が完了し、県管理道路改良率の目標達成率が100.1%に達した。	OB OC
効 率 性	①事業の経済性の妥当性 ●A ○B ○C B/Cが1.5となっていることから、本事業は経済的に妥当であったと評価できる。	●A
	②コスト削減の状況 ○A 削減率20%以上 ○B 削減率20%未満 ○C 削減なし	OB OC
総合評価	●A (妥当性が高い) ○B (概ね妥当である) ○C (妥当性が低い) 地域住民及び道路利用者の利便性の向上や交通安全の確保が図られており、住民満足度等からも成果が認められることから、当事業は妥当性が高いと評価できる。	

3. 評価結果の同種事業への反映状況等(対応方針)

同種事業の実績を踏まえ、適切な調査・設計を実施し、適正な事業費算出に努める。また、コスト削減に関しても積極的に取り組み、効率的に事業を進めていく。

4. 公共事業評価専門委員会意見

県の対応方針を可とする。

○総合評価の判定基準

総合評価の区分	判 定 基 準	総合評価
A (妥当性が高い)	全ての観点の評価結果が「A」判定の場合	A
B (概ね妥当である)	「A」判定、「C」判定以外の場合	
C (妥当性が低い)	全ての観点の評価結果が「C」判定の場合	